

〔史料紹介〕

『邦訳 日葡辞書』④

——わが国中世の児童文化史研究によせて——

M・M・M

D字で始まる語

ダキシダテ、ツル、テタ（抱き育て、つる、てた）

子どもを両腕で抱いて育てる。

デイルゴ（出入る児）

生まれて後にまた何度か母の胎内に入ると言われる鯨の子。

子。

ドウ（どう）

例ドウヲ ウル（どうを売る） 自分自身を売る。九州方言

の語。

また、子供を売る。

ドコノボウ¹⁾（でこのぼう）

からくりによって身振り・しぐさをするあやつり人形。

1) デコノバウの誤り。

ドウハウ（同胞）

兄弟。同じ母から生まれた子ども。

ドウジ（童子）

ワランベ（童部）子ども。

ドゥナン（童男）

男の子供。

ドウニョ（童女）

女の子供。

F字で始まる語

ハカマギ (袴着)

ある祝宴や儀式を行なって、子どもが初めて袴を着用すること。

ハゴ (羽子)

大きな没食子のような或る木の実を乾かしたもので、子供がそれに羽根をさし込み、それをハゴイタと呼ばれる小さな薄板で、球のようにつくのである。

例 ハゴヲ ツク (羽子をつく) 小さな薄板でその球を打つ。

ハゴクミ、ム、ンダ (育み、む、んだ)

扶養する。

例 ヒトヲ ハグクム (人を育む) 人を扶養する、または、人に食物を与える。

ハゴイタ (羽子板)

正月に子供が遊ぶのに使う小さな薄板。

ハイカカリ、ル、ツタ (這ひ掛り、る、った)

乳児が父や母などのところへ這って行く。

ハマ (破魔)

藁か藁草かで作った輪で、それを子どもが回しころがして矢で射かけるもの。

例 ハマヲ イル (破魔を射る) 子どもがその藁製の輪を矢で射る。

ハマユミ (破魔弓) この輪を射るのに使う弓。

ハマヤ (破魔矢)

子供が、藁や藁草で作った、ある種の輪を射て遊ぶのに使う矢。

ハンジャウ (繁昌)

増すこと。

例 シソン ハンジャウ スル (子孫繁昌する) 子孫がふえる、あるいは、多くなる。

ハラガワリ (腹変り)

違う母親から生まれた子供たち。

例 ハラガワリノ キャウダイ (腹変りの兄弟) 違う母親から生まれた兄弟。

ハラゴメ (腹籠め)

父の死ぬ時に、母の胎内に宿っている子供。九州方言の語。
例 ハラゴメノ トキカラ テテガ シンダ (腹籠めの時か

らててが死んだ) 彼がまだ母の胎内にいる中に、父親が死んだ。

また、どんな動物にせよ、母親が死んでその腹の中に残っている胎児、または、子。

ハライギリ (払い斬り)

女や子供であろうと僧侶であろうと、それに構うことなくすべて斬ること。

ハラミ、ム、ウダ (孕み、む、うだ)

妊娠する。

例 コヲ ハラム (子を孕む) 妊娠する、すなわち、腹に子供をもつ。

ハラミゴ (孕み子)

まだ母の胎内にある子。

ハラミ ヲンナまたはハラミノ ヲンナ (孕み女・または孕みの女)

妊娠している女。

ハラヲビ (腹帯)

妊娠した婦人が腹を小さくするために、肌にじかに締める一種の帯。九州の語。

ハッサイナモノ (発才な者)

よくしゃべる婦人、あるいは、べちゃくちやとむだ話をする婦人。

ハワ (母)

母親。

ハワギミ (母君)

母上様。

ハハゴ (母御)

母に同じ。尊敬の念をこめて言う。

ハワヲヤ (母親)

母親。

ハハウエ (母上)

母のことで、尊び敬って言う語。

ハシカ (瘡疹・麻疹)

はしか。

ヘボ (へぼ)

子どもに起こる、はしかのような病気。九州方言の語。近畿方言ではヘモナと言う。